

令和5年度 第2回 積志小学校学校運営協議会 会議録（要点記録）

- 1 開催日時 令和5年7月5日（水） 13時30分から15時00分まで
- 2 開催場所 積志小学校 会議室
- 3 出席委員 渥美 年弘、村田富佐子、小林 博典、高林亜衣子
竹内 涼子、市川 和廣、寺田 太一、伊達 麻絹
- 4 欠席委員 高林 次枝
- 5 オブザーバー 小池 誠（積志協働センター）
- 6 学 校 佐藤 匡子（校長）、伊熊 一隆（教頭）、平野 晶子（主幹教諭）
森山 貴史（CS担当教諭）、杉浦 浩（CSディレクター）
- 7 教育委員会 堀田 洋一（教育総務課）
- 8 傍聴者 なし
- 9 会議録作成者 CSディレクター 杉浦 浩
- 10 会議記録

司会から、委員総数8人の出席があり、過半数に達しているため、会議が成立している旨の報告があった。

（1）議長の選出

司会から、議長の選出について委員に意見を求めたところ、会長から竹内委員を推挙する旨の発言があり、協議の結果、全員異議なくこれを承認した。

（2）前回議事確認

司会から、別紙資料に基づき前回の議事について確認があった。

11 熟 議

議長の指示により、別紙資料に基づいて、グループに分かれて協議を行い、委員からは以下の言があった。

（1）学校支援のあり方について

○ 家庭科ボランティアについての報告

<家庭科ボランティア募集の経緯>

- ・コロナ禍で、様々な行事や活動が止まってしまい、学校と保護者や学校との交流も制限されてしまった。第1回の学校運営協議会にて、学習ボランティアに保護者や地域の方を入れることで、学校の様子を知ってもらい機会を増やしていくのがよいのではないかという意見を受け、5年生の家庭科の授業支援に入っていただくようにした。さくら連絡網により学校運営協議会の委員のみなさんに参加を呼びかけた。

<授業者からの説明>

- ・5年生の家庭科、裁縫の授業では、子どもたちに苦手意識を持たせないように、裁縫の楽しさを味わうことができるように指導をしていきたいと考えている。しかし、約30人の子供に対して教師が一人では、個別に支援できる数に限界がある。そのため、できるだけ多くの子供たちの様子を見たり、支援したりできるようにボランティアの方に入っていた。

<ボランティアにはいった委員の感想>

- ・ボランティアに入ってみて、たくさんの子供たちから、「できるようになった！」とか「教えて！教えて！」と言ってもらえて、やりがいがあった。タブレットで動画を見ながらやることができるため、個別に学ぶことができるようにはなっているが、平面的で理解しにくい部分もある。実際にその場で困っている子を見ると、どこで躓いているかわかるので、教えやすかった。ボランティアに入ると、子供たちと近くなるし、学校の様子もわかるし、先生たちの苦勞もわかるので、多くの方に参加してもらいたい。
- 今後の学校支援のあり方について（グループ協議）
（グループA 小林委員）
 - ・学校の支援を組織的に進めていくためには、組織名があったほうがよい。代表者をどうするかなどの課題がある。
 - ・地域の組織とのつながりから、ボランティアの方の募集をしていく。（たとえば、自治会、敬老会、子供会など。）
 - ・地域に回覧をして、活動を知ってもらうことが大切ではないか。
- （グループB 高林委員）
 - ・例えば、学校の草とりをしていただくボランティアの方を募集していく。
 - ・学校から、自治会などへ発信をしていき、募集していく。その際、どんな活動をするのか説明会があると、入りやすい。
 - ・地域の文化財を知る活動などもしてはどうか。
 - ・子供会を巻き込んで、活動をひろげていくのはどうか。

12 その他報告事項等

関係各所からのお知らせ

- ・自治会より 青少年育成センターから、善行賞募集のお知らせがあった。
- ・体育振興会より 秋にレクリエーションフェスタを行う。
- ・交通ボランティアより 交通指導ボランティアの方の名簿が完成した。これにより、子供たちの通学路のすべてを網羅することができ、学校運営協議会の話し合いで出てきた意見を具現化したものであり、学校運営協議会の一つの成果である。

司会から、次回会議は、「令和5年10月11日（水）に会議室で開催する。開催時間については委員の要望を聞き、決定する」旨の報告があった。